

「奈良県医師会透析部会」

第35回奈良透析学術総会

平成23年2月6日(日) 12時開始

当院から、武井先生、衣川看護師、北村臨床工学技士が、それぞれ学術発表をされます。

さらに、渡邊師長が座長に推挙されました。また、渡邊師長は他の演題の共同演者もされ

ホテル日航奈良（4F 飛天の間）

奈良市三条本町8-1

TEL 0742-35-8831

会 長
奈良県立医科大学 第1内科
齋藤 能彦

— プログラム —

一般演題 2 (医師 ②)

14:15 ~ 14:50 (飛天 C)

座長 岩野 正之 (奈良県立医科大学)

6. 当院における下肢虚血壊死患者に対する下肢切断症例の背景と予後の検討

康仁会 西の京病院 内科

武井 誠 (D) 他

7. 奈良県立医科大学透析部における 2010 年度入院血液透析臨床統計

奈良県立医科大学 泌尿器科

米田 龍生 (D) 他

8. 慢性透析患者の冠動脈石灰化スコア (CACS) と生命予後および CACS 進展の関連因子の検討

翠悠会診療所

田中 賢治 (D) 他

9. 維持透析現場での認知症の実態—血漿アミロイドβペプチド ($A\beta_{1-42}$) 濃度

医療法人翠悠会 王寺診療所

益田 眞理 (D) 他

10. 消化管血管異形成による出血が認められた透析患者 3 症例の臨床的検討

奈良県立医科大学 第1内科

山口 通雅 (D) 他

－ プログラム －

一般演題 5 (看護師 ②)

14:15～ 14:57 (飛天 AB)

座長 渡邊 美智子 (西の京病院 プラザ透析センター)

2 1. 透析室における緑茶葉の消臭効果の検討

医療法人 中辻医院 人工透析センター 安藤 香奈子 (N) 他

2 2. 水分管理の指導についての検討

済生会中和病院 透析室 山田 和美 (N) 他

2 3. 当院における PTFE 人工血管の臨床使用経験

大阪暁明館病院 看護部 島内 美貴 (N) 他

2 4. 患者が必要とする血液透析導入期指導内容の明確化

奈良県立医科大学附属病院 透析部 堂浦 美佐枝 (N) 他

2 5. 血液透析における自己抜針予防への取り組み

康仁会 西の京病院 透析センター 衣川 銘 (N) 他

2 6. 腹膜透析患者のバッグ交換時における手洗い実態調査を実施して

奈良県立医科大学附属病院 C7 (循環器・腎臓・代謝内科) 病棟
阪本 芙美 (N) 他

— プログラム —

一般演題 7 (技士 ②)

15:32~16:07 (飛天 AB)

座長 森脇 藤代美 (西奈良中央病院)

3 2. 高度狭窄のため血管内治療および外科的治療を断念した末梢動脈閉塞症 (PAD) 患者の LDL アフェレシス (LDL-A) 後の評価

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科 北村 充吉 (T) 他

3 3. NPPV を施行した重症筋無力症に血漿吸着が奏功した 2 症例

奈良県立医科大学附属病院 病院管理課医療技術係

小西 康司 (T) 他

3 4. CHDF 施行時の濾過型人工腎臓用補液の交換は 8 時間毎で良いか?

天理よろづ相談所病院 臨床病理部

石谷 彩 (T) 他

3 5. 静的静脈圧 (SVP) 測定が VA 管理に有用であった 2 症例

天理よろづ相談所病院 臨床病理部

高橋 千恵子 (T) 他

3 6. アクセストラブルを早期に発見・治療するための CE の役割

天理よろづ相談所病院 臨床病理部

高橋 千恵子 (T) 他

— プログラム —

一般演題 4 (看護師 ①)

13:40 ~ 14:15 (飛天 AB)

座長 河野 恵 (奈良県立医科大学)

16. 在宅血液透析導入に向けての効果的な看護介入

医療法人友愛会 かつらぎクリニック 透析室

木村 一美 (N) 他

17. 保存期慢性腎臓病教育入院を導入して

奈良県立奈良病院 腎・尿路疾患センター

広藤 紀子 (N) 他

18. 糖尿病性腎症患者への排便コントロールに苦慮した一事例への看護

医療法人康成会 旭ヶ丘クリニック

小倉 智子 (N) 他

19. 血液透析施設の環境に関するアンケート結果の報告—ニーズに基づいた支援のために—

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室

上北 恵子 (O) 他

20. 奈良腎不全看護研究会を発足して—2010年度の活動報告—

友愛会 かつらぎクリニック

喜寿 美知代 (N) 他

6. 当院における下肢虚血壊死患者に対する下肢切断症例の背景と予後の検討

康仁会 西の京病院 内科¹、血管外科²、整形外科³、透析センター⁴

○武井 誠¹ (D)、吉岡 伸夫¹、高比 康臣¹、今井 崇裕²、植田 康夫³、
青木 昭美⁴

【目的】当院における下肢虚血壊死患者に対して行った下肢切断症例の背景と予後について検討した。

【対象および方法】2005年4月から2007年3月までの2年間に下肢虚血壊死に対して当院で下肢切断術を受けた25例29肢を対象とした。男性15例、女性10例で、平均年齢は69.4歳であった。調査項目は、年齢、性別、切断高位、基礎疾患、再切断の有無、および予後とした。

【結果】切断高位は、大腿切断が3例、下腿切断が6例、足部切断が16例であった。そのうち再切断症例に至ったものは11例であった。基礎疾患は、糖尿病(DM)が15例、閉塞性動脈硬化症(ASO)が10例、両疾患合併(D+A)が3例、慢性腎不全による血液透析患者(HD)が15例であった。全例の初回手術からの生存率は、1年68.0%、2年36.0%、3年16.0%であったが、HD例のみでは、1年46.6%、2年6.6%、3年0.0%と特にHD例で生命予後が不良であった。

【結語】今回の検討では、HD例で特に生命予後が不良であった。DM例、ASO例のみでも予後は不良とされているが、HDに進行した例ではさらに予後不良と考えられ、基礎疾患の厳密な治療および重症虚血下肢の早期発見と的確な重症度の評価が重要と考えられる。

Key Words ; 下肢虚血壊死 血液透析 生命予後

25. 血液透析における自己抜針予防への取り組み

(医) 康仁会 西の京病院

○衣川 銘 (N)、澤谷 雄一、油谷 知輝、村上 敬子、山岡 みゆき、
青木 昭美、吉岡 伸夫、高比 康臣

【はじめに】血液透析中の抜針事故は生命の危険を伴う重篤な事故である。今回、認知障害が影響していると思われる事故を未然に防ぐため抜針予防用具（以下クリアカバー）を作製し、安全性と固定方法について検討した。

【方法】当院で独自に考案したクリアカバーを自己抜針の既往がある認知症患者 3 名に使用した。ビニール素材のカバー内で発汗・蒸れを生じることによる危険行動を防ぐため、カバーに穴を開け、改良前後で温度と湿度を測定して不快指数で評価した。テープ固定の強度はバネ計りを用いて従来の固定方法と比較検討した。

【結果】透析開始 3 時間後のクリアカバー内の不快指数は、改良前平均 85 から改良後 73 に改善することができ不快度の軽減が図れた。テープ固定方法はドレッシングテープ 1 枚と優肌絆 2 枚の使用が最も強度が高かった。

【結語】クリアカバーの考案及び改良により自己抜針予防が図れ、強度の高いテープ固定を選択したことでより抜針しにくい固定方法が選択できた。

Key Words ; 血液透析、自己抜針、クリアカバー

32. 高度狭窄のため血管内治療および外科的治療を断念した末梢動脈閉塞症 (PAD) 患者の LDL アフェレシス (LDL-A) 後の評価

医療法人康仁会 西の京病院 臨床工学科¹、透析センター²、プラザ透析センター³、内科⁴

○北村 充吉¹(T)、荒木 裕詞¹、明石 清忠¹、前嶋 昭彦¹、野口 幸¹、
青木 昭美² 渡邊 美智子³、武井 誠⁴、田宮 正章⁴、吉岡 伸夫⁴、
高比 康臣⁴

【はじめに】 PAD 発症の透析患者に 10 回の LDL-A を行い治療効果を各パラメーターで評価した。

【症例】 86 歳男性。2006 年糖尿病性腎症のため維持透析導入。2010 年 5 月両足肢痛が出現、左 1、4 趾に腫脹を認めた。治療前 SPP は、右足背 (RD) / 足底 (RP) 49/33mmHg、左足背 (LD) / 足底 (LP) 33/21mmHg であった。Fontaine 分類はⅢ度、MRA で両下肢に高度狭窄を認めたが血管内治療および外科的治療が不適と判断されたため LDL-A を行った。

【結果】 SPP は RD の治療前後で 60.1 vs 73.3mmHg ($P < 0.01$)、RP は 47.1 vs 49.2mmHg (ns)、LD は 20.8 vs 26.44mmHg (ns)、LP は 20.9 vs 20.1mmHg (ns) であった。

フィブリノーゲンは治療前後で 260.2 vs 131.2mg/dl ($p = 0.002$)、LDL-C は治療前後で 74.6 vs 25.6mg/dl ($p = 0.002$)、痛み指標 (VAS) は、治療前後で 2.5 vs 1.7 ($p = 0.008$) であった。

【結語】 今回 LDL-A を行うことで有効な治療効果を得たので、文献的考察を加えて報告する。

Key Words ; SPP、LDL アフェレシス、PAD

20. 奈良腎不全看護研究会を発足して —2010年度の活動報告—

かつらぎクリニック¹、奈良県立医科大学附属病院²、西の京病院³、田北病院⁴、
済生会中和病院⁵

○喜多 美知代¹ (N)、浅井 敦子²、鶴山 美樹²、渡邊 美智子³、
米澤 麻理⁴、和田 清美⁵

奈良腎不全看護研究会は、県内の透析療法指導看護師が世話人となり、2009年10月に発足した。本会の目的は、腎不全看護に関する知識および情報の交換を行い、会員相互の交流を図って、腎不全看護・腎不全医療の向上に寄与する事である。現在、25施設計80名の会員で活動している。今回、2010年度の活動を報告する。

第1回奈良腎不全看護研究会・総会は、2010年5月30日に開催し、総会后、奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科透析部教授 吉田克法先生による「慢性腎不全の代替療法の現状と展望」の御講演、及び入会時のアンケートを基に「本会の活動について」のディスカッションを実施した。第2回奈良腎不全看護研究会は2010年10月17日に開催し、奈良県立医科大学病院 卒後臨床研修センター准教授 赤井靖宏先生による「糖尿病性腎症と透析療法」の御講演、及び「透析サマリーについて」ディスカッションを実施した。

県内で研究会を開催することで、より多くの方に参加して頂き、関連施設の看護師の交流を通して病診連携を深め、奈良県での更なる腎不全看護の向上に貢献できるよう取り組んでいきたい。

Key Words ; 腎不全看護、病診連携